



江城日誌

第十四



定價二角

西垣文庫  
文庫 10  
7291  
14





特 文庫10

7291

14

# 官板

江城日誌第十四號  
慶應四戊辰年五月  
西垣文庫  
紅城日誌



江城日誌第十四號

慶應四戊辰年五月

五月廿九日

○小田原出張軍監ヨリ之伺書へ  
附札之寫  
第十三號

西垣文庫

一其地、而和船雇入可相廻候事

一此方より斬罪之儀ハ先見合加賀守へ三ヶ条

之趣吃度及糺問書付差出候上當府へ可伺出

候事

一伊州出張之兵隊當分之間其表、滯陣被

御付三雲為一郎為軍監被差殘候條小田原函



嶺等取締被

仰付候事

今更此方より催促實功為立候との不及候得

共乍慎為相勤不苦候事

一家中之者一統歸家謹慎被

仰付候事

一城中用意米其俵差置加賀守家来共へ可被為  
任置官軍兵隊兵食之儀は是迄之通り江川太  
郎左衛門より仕向被

仰付候事

五月

○御沙汰書之寫

今川侍従

品川侍従

前田侍従

六角主税

前田愿十郎

岡田整之助

大久保與十郎

勝田綱吉



坪内嘉兵衛

座光寺丞益太郎

菅沼左近将監

右本禄如旧下賜候事

五月二十日

○奥州出張黒羽藩 届之字

去月廿二日白川表御参謀より奥州旗宿迄出兵可致旨御差圖ニ付同日領分追分村迄三小队外ニ施條炮門繰出し翌廿三日旗宿まで

操入同北四日拂曉賊兵棚倉表よりの間道越追分村三軒之處ニ軒放火焼失且賊兵三十人余襲来村方の者一人爲手負候段同村見張之者より旗宿本陣へ注進有之依て夫々手配り罷在候処卯半刻頃棚倉往還より賊兵多少不相分候得共凡七十人程にて炮發有之不取敢戦争之及追々賊兵敗走中野番澤村入口迄二十四町程之處迄追拂賊兵散乱り候間人數旗宿へ引上候得共同所東西葉山續殊々奥州へ之間道多く地利不冝何分一手にてい番兵



江日誌十四  
難届就<sup>とま</sup>り白坂宿へ兵隊繰入其段早速御参  
謀方へ御届仕候処追<sup>ま</sup>り而白川表へ繰入と相成  
候迄同所へ警衛<sup>けいゑ</sup>致し候様御差圖と付大垣藩  
一同警衛罷<sup>や</sup>在候同廿六日卯半刻頃右宿最寄  
と而天王山と中森林と賊兵五小队屯集致し  
炮發依之大垣藩二小队當家三小队并大炮一  
門兩勢と以炮戰午刻過賊兵敗走と及び討取  
生捕分取等猶追而取調之上御届可申上候得  
共不取敢右之段御届申上候以上

五月

黒羽藩隊長

五月廿三左衛門

江川太郎左衛門

頃日箱根辺之殘賊豆州網代辺屯集之趣ニ相  
聞候ニ付人數繰出し早々掃攘可致旨 御沙  
汰候事

五月

○奥州出張薩藩より届之写

昨廿七日三字頃より北ノ方十八町位御座候



會津街道筋大谷地村ヲ根據トシテ追々賊山  
上へ兵と分配一襲來候ニ舟二番隊四番隊足  
輕大垣一小隊土州二小隊位左右へ相分進  
擊候処五字過ニ至リ賊退散リ大谷地村迄  
致追討候処既ニ夜ト入候ト舟大谷地村白川  
之要口ニ舟燒拂六字過ト兵隊都て引揚申候  
討取候死骸十五六位も御座候哉山中諸処之  
戰リて碇と取調不行届凡右内外ト御座候歎  
山中諸処ト屯集リ千人内外も御座候趣  
御座候此段不取敢御届申上候以上

五月

○忍藩より届之寫

下總守領分武州秩父郡大宮郷へ去る廿三日  
怪鋪跡之者立入候ト付取押取調候処彰義隊  
瀧川渡其外共都合十二人飯能リ被討洩候  
者ト付斬首仕候以上

五月

○小田原より届之寫

林昌之助始脱走之賊徒日金道より熱海真鶴  
辺ト心差候様子ト付討手ト箱根宿より



三小隊分配仕差向申候

一昨廿七日箱根之而及戰爭候節

一首級 七ツ 孕石帶刀手之討取申候

一生捕 一人 是ハ林昌之助下僕之由之

御座候

別通

一首 二級

但豆相境日金之而打取申候

一首 九級

但相州底倉村字堂ヶ島之而打取申候

右之段御届申上候

五月廿九日

大久保加賀守家来 郡 權之助

湯本村

箱根宿

同權現社領

此度兵火焼失之付右村々へ御救米軒別一俵

宛合七十八俵被下置候事

六月

佐土原藩

御牧重太郎



右者先達而豆相軍監（たけなす）附（つ）屬（ぞ）と（と）小田原表へ  
出張被（ま）仰付置候処箱根（はこね）と而戰死（たたかひに）候趣  
御座候此段御届申上候以上

六月

佐土原藩



